

Dr.pH 液剤 (ドクターペーパー液剤) <既存緑地・法面用>

ドクターペーパー液剤は、すでに植栽されているアルカリ基盤土壌の表層を中和改良することで劣化した樹勢の回復を促すための資材です。



● 樹勢劣化や枯損の多くは、アルカリ土壌が原因


多くの建設現場ではセメント固化剤による地盤安定化処理が行われています。このため、基盤はセメントの影響で強アルカリ性になっています。このような基盤に客土をしたとしても、下層からのアルカリ成分の浸透で客土層もアルカリ性を呈するようになってしまいます。このようなアルカリ土壌では、いくら施肥しても植物が利用することができません。

アルカリ土壌の障害性

4	5	6	7	8	9
		窒素			
		石灰&蓋土			
		燐酸			
		加里			
		イオウ			
		Fe, Mn, Zn, Cu			
		モリブデン			
		ホウ素			

左図：土壌 pH と肥料成分の不溶化を示したものです
 ・pH7.5~8.8の範囲でりん酸、ホウ素が不溶化します
 ・pH7~7.5以上になると鉄、マンガン、亜鉛、銅といった微量成分が不溶化します
 その結果、栄養障害から樹勢が衰えてしまいます。→

写真右：客土が pH8.2 までアルカリ性になった結果、鉄、ホウ素、マンガンなどの欠乏症を呈したさつき。放置すると枝葉の密度が低下し病虫害の発生や枯死の原因になってしまいます。




● Dr.pH 液剤散布による樹勢回復


Dr.pH 液剤散布の効果

ドクターペーパー液剤を散布すると、地表 3~5cm の pH が中和されます。下図は埋立地での実施例ですが、pH8.5 の表層土が pH6.7~7.3 程度まで中和矯正されます。不溶化していた養分が溶け出し植物に利用されるため、短期間で樹勢が回復します。高木であっても、栄養根は地表に多く分布しているため高い効果が得られます。

下層にセメント処理基盤がある場合、この影響で徐々にリバウンドし pH が上昇する傾向があります。従って、ドクターペーパー液剤を年間 1~2 回を目安に、数年間継続して散布することをお勧めします。

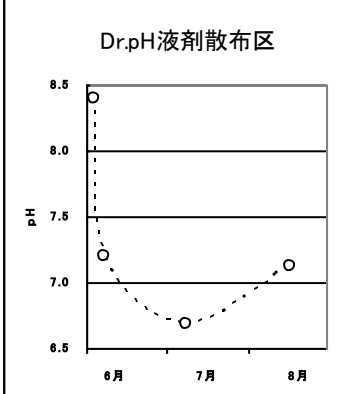


pH8~8.5 の植栽基盤に植栽されたマテバシイ。葉色がやや黄変し、鉄などの微量要素欠乏症とリン酸不足による生長不良がみられました。




Dr.pH 液剤散布 2 ヶ月後の状態。葉色に遜色はなく、葉の密度が高まり明らかに樹勢が回復しています。


散布方法 土壌 pH に応じ、5~20 倍に希釈し 3~8ℓ/m を散布します



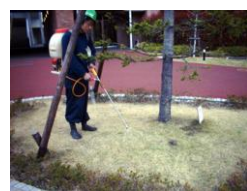
Dr.pH液剤散布区



Dr.pH 液剤は 20ℓポリ容器入りです。原液は強酸性です。希釈作業周辺をビニールシート等で養生してください。



なるべく地表に散布してください。動噴を使用する場合は、ノズルを外し霧状にならないように注意してください。



地被植物、芝生地にもそのまま散布できます。散布後に葉面について Dr.pH 液剤を、真水で軽く洗い流してください。

希釈倍率は土壌の pH 値に応じて調整し、散布量は改良したい深さまで浸透するよう考慮して決めてください。

使用上の注意事項

- ・ドクターペーパー液剤は強酸性液剤です。目に入らぬよう保護メガネを着用し作業してください。
 - ・残液の処分は、廃酸として専門処理業者に依頼してください。水域や排水溝への直接投棄はできません。
 - ・強風下での作業は控えてください。散布にあたって、霧状に液剤が拡散しないようノズルの調整を行ってください。
- 成分：燐酸塩 ポリ鉄 有機酸 (pH1~3: 希釈時) ※中和試験は当社で実施しております。お問い合わせください。